

東白川村 美しい村づくり 委員会

第 30 回

- 場 所：ふれあいサロン
- 時 期：平成 30 年 10 月 30 日 19:00~21:00
- 参加者：委員 3 名 一般参加 3 名 行政 3 名

第 1 高野教授との学びの場

「持続可能な東白川村をデザインしよう！

～第 5 回 地域のシェアハウス(3)～

平成 30 年度に委員会では高野教授による勉強会を 4 回予定しています。今回はその第 4 回が行われました。シェアハウス(1)では「移住支援としてのシェアハウスのススメ」のレクチャーを受け、地域におけるシェアハウスの効果を学びました。シェアハウス(2)では空き家をシェアハウスとして利活用していく際の、法令や運営について話し合いました。今回は、空き家のシェアハウス利用に関する、プレゼン作成について話し合いました。

1 高野教授のプロフィール

名古屋大学で地球学を研究後、環境学へと移籍。現在、名古屋大学大学院環境学研究科・持続的共発展教育研究センターで教授を務める。様々な専門家と協働し、主として地下資源が枯渇した千年後も成り立つ地球と社会のシステムを作り出すための『千年持続学』を研究。地域住民、行政とともに中山間地の地域再生に取り組んでいる。

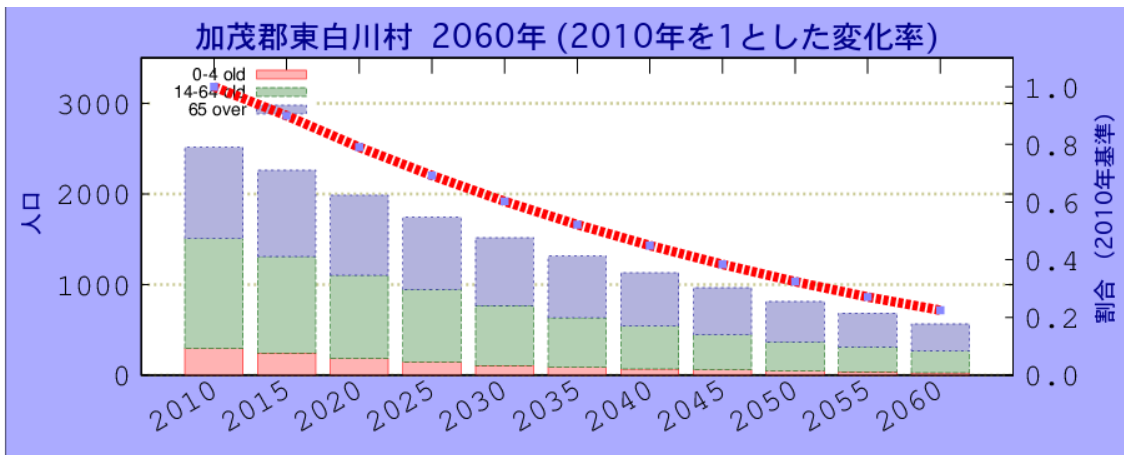
- ◆「ミライの職業訓練校」校長
- ◆近編著：「持続可能な生き方をデザインしよう」（2017 明石書店）
～世界・宇宙・未来を通していまを生きる意味を考える ESD 実践学～

2 「空き家のシェアハウス利用」プレゼン資料について

美しい村づくり委員の田口さんが、今回の委員会のためにプレゼン資料を作成されました。その内容を田口さんから説明をうけ、その後話し合いが行われました。

(1) プレゼン資料の内容

ア 現在の東白川村の人口推移。(2010年～2060年)

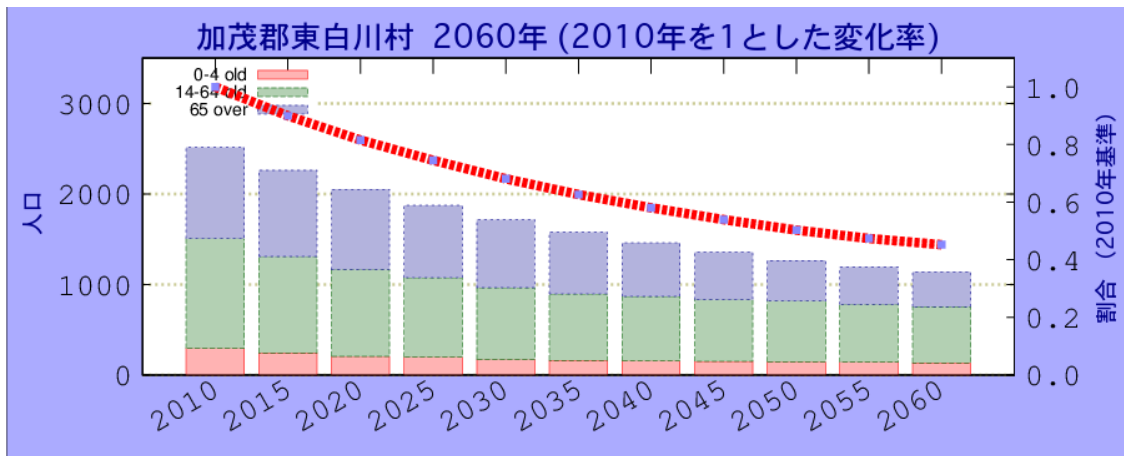


「名古屋大学大学院附属持続的共発展教育研究センター提供小地域ごとの簡易人口推計ツール」を使用

イ 毎年、4家族が移住した場合の人口推移。

(こどもの数が下げ止まる。)

※1家族は30代前半夫婦と5歳～10歳子供1人の計3人



「名古屋大学大学院附属持続的共発展教育研究センター提供小地域ごとの簡易人口推計ツール」を使用

ウ 東白川村の移住の状況。移住が進んでいない要因。

■ 課題

- ・ 空き家があっても貸してもらえない (信用がない)
- ・ 一軒家を購入、改装する資金上の問題

- ・村内の情報をうまく取得できない
- ・地域の人と繋がることができない
- ・村で生活していく上での不安
- ・村で仕事をしていく上での不安

エ シェアハウスは移住が進まない課題を解決する。

オ 一般的なシェアハウスの特徴について。

カ 移住者向けシェアハウスの特徴と効果について。

■特徴(1) 短中期の住居（1週間～3年くらい）

- ・簡単に移住することができる
- ・村での生活を試せる
- ・住む場所にそれほどこだわらない
- ・地域の行事などに参加して信用を得る
- ・流動性が高まり関係人口を増やすことにも寄与

■特徴(2) 同じ境遇の同居人がいる

- ・先輩がいて地域や住民について教えてもらえる
- ・人、仕事、サークルなど紹介してもらえる
- ・情報交換ができる（職場、生活の仕方）
- ・「共有」「交流」の面白さ

ケ 移住促進には地域全体での活動と協力が不可欠。

コ スキームと確認事項について。

(2) 話し合いでの意見

ア プレゼン資料のスキーム・確認事項は伝えるべき内容。

イ 確認事項として、サブリース（転貸借）の可否の確認が必要。

ウ 東白川村の移住希望者の問合せ状況もプレゼン資料に必要。

エ 空き家自体の建物の価値を活かした利用を心がけるべき。

オ シェアハウスとして利用できるかの判断の1つとして、耐震化の費用がある。耐震診断から、その物件の耐震費用が分かる。

第2 がんばる補助金採択イベントのふりかえりについて

次回の委員会にて、今年度3件の採択案件についてチェックを行う。

実施者による委員会での報告とする。

第3 集落あるもの探しについて

1 1月23日（祝）に曲坂にて開催決定。

日時場所：ふれあいサロン集合（乗り合わせ） 8時15分

岩倉橋から散策スタート 8時30分

第4 今後の委員会について

委員の田口さんから、これからの委員会の活動について提案がありました。

1 提案内容

ひとつのテーマに沿って委員会が行われるのではなく、「分科会」形式として運営していくのはどうか。月1回行われる委員会では、普段活動される各分科会の活動報告や相談等の情報交換としての機能とする形式はどうだろうか。

普段の分科会の活動を主体とすれば、いろいろな方の参加が期待できる。現在実施している「集落あるもの探し」は、東白川村をあらためて知ること、新しい活動が生まれることを目的として行っている。しかし、活動を重ねていく中で、「集落あるもの探し」をやり遂げることが目的となってしまっているように感じる。また、分科会の活動は、各個人の「やりたいこと」へと重なり、目的が明確化し活動が活発化する。

2 意見

(1) 分科会形式は、委員以外の多くの方を巻き込む可能性が広がる。

(2) 分科会が生まれるには、以下のステップが必要では。

ステップ1「自分のやりたいことを伝える場」

ステップ2「お互いのやりたいことがつながる場」

ステップ3「同じやりたい人が集まる場」

ステップ4「分科会の発足」

3 委員会の今後

次回から委員会は、分科会形式での活動を目指すこととなりました。

第5 次回について

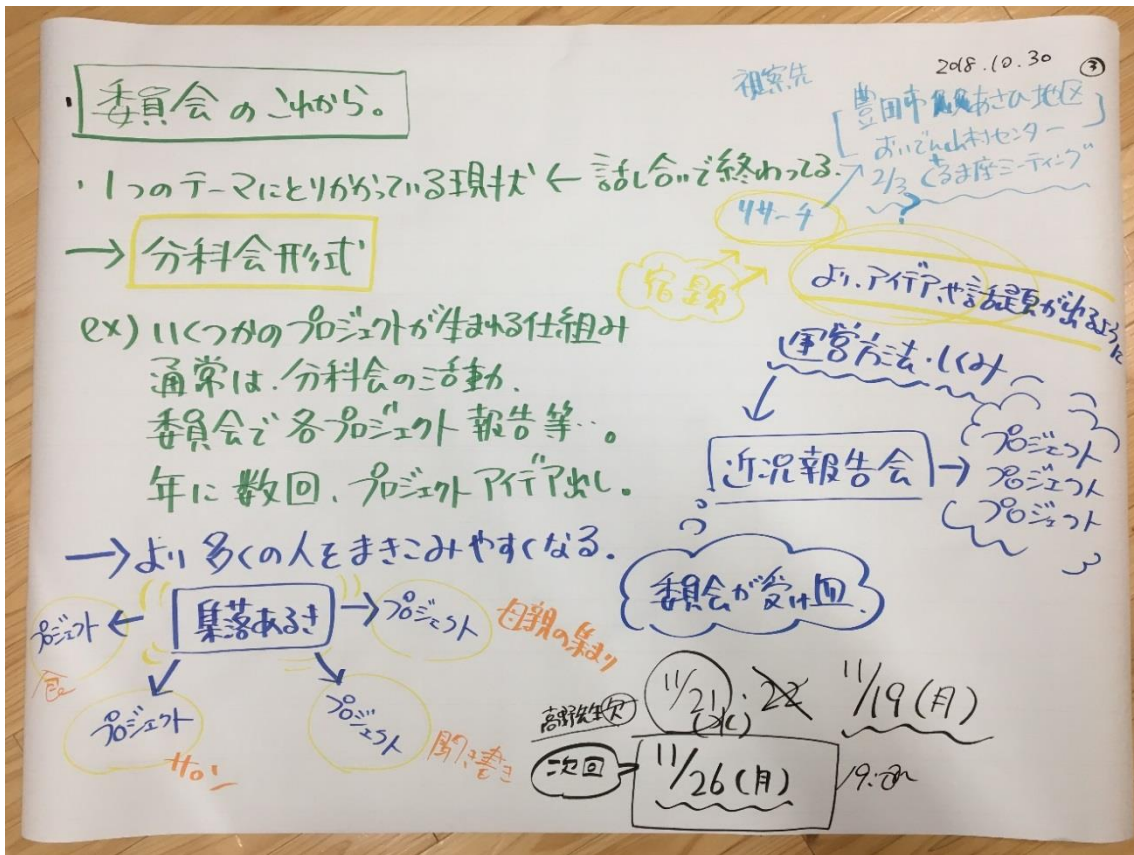
1 委員会 11月26日(月) 19時～

(会場) ふれあいサロン

(内容) (1)雑談ワークショップ～わたしの近況報告～(仮)

(2)がんばる補助金採択事業ふりかえり

ファシリテーショングラフィック↓



以上